



第21回例会(12月4日)
平成27年12月11日発行

クラブ事務所 岩手県盛岡市菜園1丁目10
川徳デパート内
例会場 同上 TEL(651)1111(代)
例会日 毎週全曜日12時30分～

会長 岩野 法光
幹事 吉江 信博
会報 福田 荘介
クラブ事務局 TEL(653)5682
FAX(653)5622

Be a gift to the world. '世界へのプレゼントになろう'…………… K. R. ラビントラン



ROTARY パスト会長卓話シリーズ 第五弾

「紫波町 平井邸について」

菊の司酒造(株) 代表取締役社長

平井 滋君

2013-2014年度 会長:平井 滋
副会長:福田 荘介
幹事:岩野 法光
幹事:平野 佳則

RIテーマ:ロータリーを実践し
みんなに豊かな人生を

クラブテーマ:75th 拡げよう奉仕の輪、
維げよう親睦の和

紫波町日誌にある私の所有する住宅が10月16日に文化庁の文化審議会文化財分科会において国の重要文化財に指定すべきとの答申が出されましたので当家の沿革を含めて建物の紹介を致します。

答申の内容は伝統的な平面構成に近代的な接客機能や意匠を備えた大規模商家建築(近代/住居)として主屋、表門、南蔵、北蔵、米蔵、造蔵の建物6棟と土地が対象になり、主屋は大正10年の建築で店の構えや通り土間は伝統的な平面でガラス窓を多用した開放的な外観、二階の広大な大広間などの上質な接客空間、変化に富む屋根などに近代の特徴が窺える。建築年代が明確でかつ規模壮大な建物である。当地方の伝統的な平面を継承しつつ、近代的な意匠と手法が随所に導入されており、優れた和風建築として高い価値がある。また伝統的な土蔵と煉瓦造の蔵が共存し、防火を意識した煉瓦塀で敷地を囲うなど近代の展開を示す建造物が一体的に残っており、土地と併せて保存を図るというものでした。

紫波町は当地を治めていた斯波氏が居城であった高水寺城(現在の城山公園)周辺に小規模な市街地を形成、現在の日誌地区が出来ました。斯波氏は天正16年(1588)に南部氏に敗れ、高水寺城は天正19年(1591)に郡山城に改称。近世には代官所・御蔵・御用屋敷などが置かれ地方支配の中心となった。街道が整備され、北上川の舟運により宿場町として賑わい、南部領内では盛岡・花巻・遠野に次ぐ市街地であった。

昭和30年に日誌町・古館村・水分村・志和村・赤石村・彦部村・佐比内村・赤沢村・長岡村の1町8ヶ村が合併して現在の紫波町になった。

さて、当家の沿革についてお話し致します。先祖は伊勢商人としていますが、代々、滋賀県東南部の近江日野に住み、蒲生氏郷の転封に従い、松阪に移り、さらに会津に下ったようです。

元和年間(1615-1624)に伊勢松阪出身の初代六右衛門が分家して会津から日誌に来住し、伊勢屋と称して米の取引を行ったのが始まりで寛文2年(1662)に亡くなりました。

2代目からは六右衛門を名乗り、寛文4年(1664)に盛岡藩から2万石が分割され八戸藩が成立。志和が飛び地として八戸領となり、御蔵宿に指定されました。御蔵宿は志和産米を江戸へ移出する際の保管、移送業務を担当する職制でした。

紫波町史の記述によると6代目が明和4年(1767)に蔵を改築、安永2年(1773)に紋付袴の着用を許され、酒造業も始めたようです。

近世期は代々倉庫業を本業とし、蔵宿業務に加え民間の物品保管にも応じ、保管料もっており、輸送業務で来町する関係役人を泊める士分相手の宿屋にまで発展したとなっています。

明治維新の頃の10代は長女に婿養子、要蔵を迎え11代とし成長した息子の泰蔵に明治4年(1871)から盛岡の油町に支店を開設して酒造業を営ませました。11代は明治15年(1882)に早逝し、10代が再び家業を取り仕切ったようです。

12代六右衛門(政治郎)は10代の没後(明治26年(1893))に家業を継ぎ、醸造業や鉱山経営など多方面で活動、大正4年(1915)衆議院議員、大正8年(1919)貴族院議員と政治家としても活躍。大正10年(1921)10月になくなりました。

13代六右衛門(範助)は昭和4年(1929)

に(株)平六商店を設立。戦時中は盛岡酒造に統合されるが、戦後昭和29年(1954)に分離独立。昭和32年(1957)に13代死去により14代洸が継ぎ、昭和43年(1968)に菊の司酒造(株)に社名変更。昭和50年(1975)に七福神の箱庄酒造店を合併し、今日に至るわけですが、平成14年(2002)に私に社長業を交代、父である14代は平成24年(2012)に死去しております。

酒造業についてお話しておきますが、幕府は米の需給と米価の安定を目的に酒造業の統制を断続的に実施、南部藩も準ずる形で酒造高と軒数制限を行っており、酒の製造販売には造酒株を取得し、藩の認可を得る必要がありました。現在資料が所在不明で確認できませんが、当家の酒造は小規模であったと思われ、森嘉兵衛さんの「南部杜氏-南部杜氏の成立展開」によると平井家で幕末に約100石の酒造権を取得し酒造り行い、文久3年(1863)頃には杜氏以下14名を雇用。廃藩置県により、御蔵宿制度が廃止、主生業になったようです。

さて、本題の住宅建築に関わる話になります。12代は盛岡銀行株主、二戸郡平糠金山・和賀郡綱取銅山の経営、明治36年(1903)には北上川に架橋された木橋「平井橋」(賃取橋)への出資など様々な事業に関わりました。

明治大正期には火災が相次ぎ、大正3年と4年に近隣で大火が発生。豪華な建築構想は実業家・政治家としての社会的地位に応じた居宅と

防火意識の高まりが背景にあったと思われます。

材料は和賀郡の持ち山から巨木を伐り出し、銘木は台湾などから取り寄せており、完成した大正10年(1921)年に時の首相、原敬が新築披露の宴に訪れたと原敬日記にあります。

新築披露は8月14日の盆中に行なわれ、暑中のため、後ろには当時デビューしたばかりの盛岡芸妓の都多丸さんが団扇で扇ぎ、座敷には氷が置かれ、屋根には地元の消防団が放水したとされ、地元あげでの歓迎ぶりでありました。

12代はその年10月19日に病死、原総理も同年11月4日に東京駅で遭難しております。

主屋は1間を6尺3寸とする間口7間強、桁行18.5間の木造2階建瓦葺屋根。表通りに面した壁と塀は煉瓦積みとし防火・防火に配慮しております。

棟札によれば大正7年6月24日に地鎮祭がおこなわれ、設計者は家相師の仁階堂龍齋。大工棟梁は地元日詰の鈴木藤吉、盛岡の佐々木新太郎、齋藤第二となっています。

仁階堂龍齋は現宮城県涌谷の筧獄山の天台行者、青森県金木町の太宰治記念館「斜陽館」[太宰の父、津島源右衛門が建てた(明治40)設計 堀江佐吉]も設計したと伝えられる。

大変な遺産を引き継いで行かなければなりません。地域の財産としても役立てて頂きながら、今回の指定を活用していきたいと思っております。

例会報告

第21回例会 平成27年12月4日(金)

- 12時30分 開会点鐘
 ・司会 岩野法光会長
 ・国歌 君が代
 ・ソング 奉仕の理想
 ・会長報告 岩野法光会長
 ・皆出席バッチ 樋山 桂君(5

- 年)・勝 雅行君(1年)。
 ・入会祝 吉田育弘・高田浩二君。
 ・誕生祝 古山明廣・平井 滋君。
 ・結婚祝 勝部民男・早坂靖志君。
 ・幹事報告 海野 尚副幹事

【他クラブ例会変更のお知らせ】

- 盛岡南R.C.=12月15日(火)は、クリスマス家族会のため18:30~時間変更。12月29日(火)は、特別休会。
 ●盛岡滝ノ沢R.C.=12月17日(木)

は、通常例会(当初17日を例会変更としていました)。24日(木)は、クリスマス会のため19:00~「ラ・ドルチェヴィータ」。

●メークアップ

盛岡北R.C.=田口君。盛岡西R.C.=菊池君。盛岡東R.C.=平賀・荻野君。盛岡西北R.C.=橋本君。クラブ委員会=星・飯塚・嶋君。

出席報告 会員数/73名 出席数/43名 出席率/62.31% 前々回/71.43%

プログラムの
お知らせ

・12月11日(金) 年次総会 新入会員卓話 工藤幸一会員
 18日(金) 年忘れ家族会
 25日(金) 特別休会

- 本号編集担当/佐藤 仁志
 ●次号編集担当/福井 誠司